土佐日記　（阿倍仲麻呂）　＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

十九日。日悪しければ、船A出ださず。

二十日。昨日のやうなれば、船出ださず。みな人々、憂へ嘆く。苦しく心もとなければ、ただ日の経ぬる数を、今日幾日、二十日、三十日と数ふれば、指も損なはれぬべし。いとわびし。夜は寝もB寝ず。

二十日の夜の月出でにけり。ア山の端もなくて、海の中よりぞ出で来たる。かうやうなるを見てや、昔、阿倍仲麻呂と言ひける人は、イ唐土に渡りて、帰り来けるときに、船に乗るべきところにて、かの国人、馬のはなむけし、別れ惜しみて、かしこの漢詩ウ作りなどしC(①)けり。飽かずやありけむ、二十日の夜の月D出づるまでぞありける。その月は海よりぞ出でける。これを見てぞ(②)、仲麻呂の主、「我が国にかかる歌エをなむ(③)、神代より神も詠ん給び、今は上中下の人も、かうやうに別れ惜しみ、喜びもあり、悲しびもあるときには詠む。」とて、E詠めりける歌、

□振り放け見れば春日なる三笠の山に出でし月かも

とぞ詠めりける。かの国人、(④)聞き知るまじく思ほえたれども、言の心を、男文字に様を書き出だして、ここの言葉伝へたる人に言ひ知らせければ、心をや聞き得たりけむ、いと思ひのほかになむ賞でける。唐土とこの国とは、言異なるものなれど、月の影は同じことなるべければ、人の心も同じことにやあらむ。

さて、今、(⑤)そのかみを思ひやりて、ある人の詠める歌、

都にて山の端に見し月なれど波より出でて波にこそ入れ

問一　二重傍線部**ア～エ**の語の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

問二　波線部**A～E**の動詞の活用の種類とここでの活用形を答えなさい。（例：カ行四段活用・未然形）

問三　傍線部①、④を現代語に訳しなさい。

問四　傍線部②「これを見てぞ」の「ぞ」の結びについて説明しなさい。

問五　傍線部③「かかる歌」とは何を指すか。

問六　傍線部⑤「そのかみ」とあるが、いつのことか。

問七　和歌の中の空欄部に適する語を入れなさい。

問七	問五	問四	問三		問二			問一
			④	①	E	C	A	ア
								イ
	問六							
					・	・	・	
								ウ
						D	B	
								エ
						・	・	

学年
組
番号
氏名
得点

土佐日記　（阿倍仲麻呂）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　文章の流れ、文脈を読み取り比喩表現を理解しているか、的確な現代語訳ができるか、また、基本的な文法知識を確認する。

☆解答例と配点

問一　ア　やまのは　　イ　もろこし　　ウ　からうた　　エ　かみよ　〈2点×4〉

問二　A　サ行四段活用・未然形　　B　ナ行下二段活用・未然形　　C　サ行変格活用・連用形
D　ダ行下二段活用・連体形　　E　マ行四段活用・已然形（命令形も可）　〈3点×5〉

問三　①　満足できなかったのだろうか　　④　聞いても分かるまいと思われたけれども　〈5点×2〉

問四　後の「詠めりける」のところで連体形で結ぶべき所、「歌」が続いてしまったので結びは消滅した。　〈5点〉

問五　和歌　〈4点〉

問六　仲麻呂が和歌を詠んだ時　〈4点〉

問七　青海原　〈4点〉

計50点